



# 国民春闘共闘

2023年度 第3号  
2022年 11月 11日

国民春闘共闘委員会  
〒113-8462 東京都文京区湯島 2-4-4 全労連会館  
☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

## 年末一時金 第1回集計

**初回集計で前年を上回る！しかし、物価は高騰！  
さらなる上積み求めて粘り強くたたかいを進めよう**

国民春闘共闘委員会（全労連、純中立労組懇、地方共闘などで構成）は11月10日、2022年度第1回目の年末一時金集計を行いました。

### <回答状況>

	2022年	2021年同期
回答引き出し組合	440	402
うち 妥結組合	113(25.7%)	97(24.1%)

### <要求と回答内容>

集計方法&対象		2022年回答	2021年同期	同期比
単純平均	月数	1.97	1.95	0.02
	額(円)	606,423	591,381	15,042
加重平均	額(円)	626,506	557,993	68,513
	組合員数	79,193	92,238	

### <前年実績との比較が可能な組合における金額・率の比較>

		組合数	うち前年実績以上	22年回答	21年実績	実績比
単純平均	月数	351	261(74.4%)	1.97	1.95	0.02
	額(円)	243	142(58.4%)	601,820	596,712	5,108

### <非正規の仲間の回答状況>

		時給制	月給制	再雇用・時給制	再雇用・月給制
単純平均	月数	0.703 (0.954)	1.297 (1.399)	0.926 (0.876)	1.118 (1.429)
	額(円)	53,809 (54,441)	272,281 (183,001)	106,625 (74,298)	240,832 (166,484)

※額または率のみの報告があるため、双方は連動しません。

※言葉による回答は平均などの計算から除いています。

※非正規の仲間の回答状況のカッコ()内は前年度最終集計の結果

## <集計結果の概要>

### 回答引き出し・妥結状況

2022年度の年末一時金第1回集計には、19単産・部会から回答報告が寄せられました。回答引出し組合は440組合で、前年同期比（2021年11月5日）9.45%増となっています。このうち、春闘・夏季闘争での交渉も含めて20組合が数次の上積み回答を引き出しています。

現時点で妥結しているのは113組合で妥結率は25.7%と前年同期から1.6ポイント増加しています。

### 回答内容

回答月数が判明している373組合での単純平均（一組合あたりの平均）は1.97ヵ月で、前年同期（19.5ヵ月）から0.02ヵ月増とほぼ前年並みの水準になっています。

回答金額が判明している254組合での単純平均額は606,423円で、加重平均（組合員一人あたりの平均）は626,506円といずれも前年を上回る成果を勝ち取っています。出版労連、化学一般労連、JMITUなどの18組合では100万円以上の高額回答を引き出しています。

単純平均で前年実績比較可能な組合を見ると、月数では351組合のうち74.4%にあたる261組合が、金額では243組合のうち142組合・60.4%が前年実績以上となっており、月数・額ともに若干前年実績を上回っています。

出版労連では秋闘で物価対策を要求して、一時金回答に反映させるなど、食料品や光熱費など物価高騰が続く中、「これでは生活できない」と各組織が切実な要求を示しながら奮闘しています。

一方で、原材料費高騰なども理由にした低額回答も散見されますが、生活改善に資する一時金獲得に向けて、多くの仲間が上積み求めて粘り強くたたかいを継続しています。

### パートやアルバイトなど非正規雇用で働く仲間の一時金

非正規雇用で働く仲間の一時金は、別表の6単産84組合から156件の獲得報告が寄せられています。

このうち、時給制労働者の一時金獲得は、日本医労連47件、生協労連45件、全印総連3件、出版労連2件の計97件となっています。月数報告のあった71件の単純平均は0.703ヵ月、金額は報告のあった43件の単純平均で53,809円と、月数・額ともに前年最終を若干下回っています。

月給制労働者非正規雇用の仲間の一時金は生協労連が41件獲得するなど44件となっています。月数の単純平均は1.297ヵ月となっています。金額では、建交労の組合で高水準の回答を引き出しており、単純平均272,281円となっています。

継続雇用者では、時給制労働者が生協労連、全印総連での7件で、単純平均0.926ヵ月、106,625円月となっています。給制労働者は8件の引き出しで、単純平均1.118ヵ月、240,832円です。

正規雇用労働者と同水準の回答を引き出している組織もあります。すべての労働者の一時金獲得・大幅な引き上げに向けてさらに交渉を強めていきましょう。